

神の不思議な業を行う

マルコ 6:30-44

導入

皆さんは、これまでにどのような神の不思議な業を経験されたでしょうか？わたしたちの信じる神は、天地を創造された不思議を行う方です。そして、その神は、ご自身にとって最も大切な御子イエスを与えるほどにわたしたちを愛して下さっています。このイエスを信じることによって、神の不思議な業が行われ、罪から救われ、天に国籍を持つ者、神の民とされます。そして、神を信じることによって、毎日の生活の中で神の不思議な業を行う者とされます。わたしたちは、救世軍歌集 85 番「とうとき主イエスよ」の 1 節「とうとき主イエスよ 祈るわれらに み霊をゆたかに そそぎたまえよ かわけるところに み霊をそそぎ ふしぎをおこのう ちからたまえよ」と賛美します。神の不思議な業を行う者になりたいと思います。しかし、信仰生活を続ける中で知らない内に神の力を限定してしまう誘惑に気を付けたいと思います。イエスの弟子たちも神の力を限定してしまう誘惑にいました。マルコによる福音書 6 章 30 節から 41 節には、イエスが五千人を 5 つのパンと 2 匹の魚によって満腹にされたことが記されています。弟子たちは、これまで神の不思議な業を見、自分たちも行ってきましたが、ここでは 5 千人には、イエスでさえも食べ物を与えることはできないと決めつけてしまいました。いつの時代も神の力を常識の範囲に納めようとする誘惑があります。しかし、神はわたしたちを用いて不思議を行われます。そこで、「神の不思議な業を行う」ことについて 3 つを学びます。

1 神の力を限定する誘惑があります

(1) 神の力を常識の範囲でとらえてしまう誘惑があります

弟子たちは、これまでに次から次へと神の不思議な業を見、経験した人たちでした。しかし、ここでは大勢の群集を見て、人間の常識的な判断で群衆を解散させて自分で食べ物を調達させることを勧めています。(35-36 節) 彼らは、不思議を行う神の御子イエスが一緒におられるにも関わらず、信仰を働かせることなく、神の力を常識の枠に入れ、解散を勧めました。信仰生活を続ける中に、神の力を常識の枠内でとらえようとする誘惑が起こってきます。

(2) 神の力を限定する時に失望します

弟子たちは、5 千人が食べるには解散して、各自が各自の責任で食べ物を買に行くしかないと考えました。しかし、イエスは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われました。(37 節) その時、弟子たちは 200 デナリオン分のパンを買うことは不可能と考えました。1 デナリオンは一日分の労働賃金であり、その金を準備し、パンを買うことは出来ないで悩みました。神の力を限定し、期待しなくなる時に、失望が心を支配します。何かを計画する時、神に期待しないで、神の力を限定すると失望します。サタンは、この時の弟子たちと同様に、わたしたちが神に期待しないように、神の力を限定させるように誘惑して、失望させます。

2 神はわたしたちを用いて不思議な業を行われます

(1) 神はわたしたちを必要としておられます

神は、不思議な業を行うために、わたしたちを必要としておられます。ここでイエスは、5 千人の必要を満すために、「あなたがたが食べ物を与えなさい」と言われました。主は、

わたしたちに与えられているものに目を向けるように言われます。わたしたちには、自分がないものに心が奪われ、ないことを嘆いてしまう誘惑があります。しかし、主の前には嘆いている暇はありません。イエスは、わたしたちに与えられているもので神の不思議な業を行うと言われます。5つのパンと2匹の魚は5千人を満たすには、全く役に立たないように思われますが、神は人間的には小さなさげ物と思われるものさえ豊かに用いて不思議な業を行われます。神は、取るに足りないと思っているわたしたち一人一人を必要としておられます。

(2) 神に自分の持ち物を献げる時に神の業が行われます

ここで、イエスは弟子たちに、「パンはいくつあるのか。見てきなさい」と言われました。そして、イエスが、弟子たちが持ってきた5つのパンと2匹の魚をとり、みんなを青草の上に座らせ、天を仰ぎ、賛美の祈りを唱え、裂かれた時に神の不思議な業が表されました。(41-44節) しかもすべての人が満腹して、パンくずが12籠になったのです。わたしたちが持っているものを献げる時に、常識をはるかに超えたことが起こるのです。神はわたしたちを用いて神の不思議な業を行われます。

3 神の不思議な業を行う者となる

(1) 神から与えられているものを喜んで神に献げる

この5つのパンと2匹の魚は、少年が持っていた弁当です。(ヨハネ6:9「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」) この子どもの弁当の献げ物によって神の業が行われました。少年にとって自分の大切な弁当を差し出す行動は大変な決断ですが、この献げものを神は用いられたのです。自分に与えられているものを小さいと嘆くのではなく、しっかりと献げることによって神の不思議な業が始まります。いかにも何の役にも立たないと思えるものさえも神は用いられます。神から与えられているものを自分で判断するのではなく、神に献げることによって神の業を行いたいと思います。

(2) 神に期待して心から献げる

神は、「石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことができになる」(ヨハネ3:8)方です。この神があえてわたしたちを用いて神の不思議な業を行われます。この時代に最も必要な人物は、神に期待し、大胆に自分に与えられているものを献げる人です。神はわたしたちを用いて神の不思議な業を行われます。少年が大胆に、自分にとって大切なものを献げたように、わたしたちも思いきり献げたいと思います。自分の常識の枠を取りはらって、自分にあるものを喜んで神に献げ、神の不思議な業を行いましょ。